

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。
お水取りが終われば訪れる春が待ち遠しい今日この頃。いかがお過ごしですか。
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動しています。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

- 1 種子法が廃止されて、これからどうなるのか
- 2 給食ゲーム作成にむけて

■ 1 ■ 種子法が廃止されて、これからどうなるのか

2月5日、種子法についての学習会に参加しました。講師は、近畿大学農学部教授の池上甲一先生です。

日本の自給率ってどれくらいかご存知ですか？野菜は約80%、米は100%、ムギやダイズは10%前後です。では、それらのタネの自給率はどれくらいでしょう？野菜が約30%なのに対して、コメ・ムギ・ダイズは100%！これは実は「主要農産物種子法（種子法）」によってコメ・ムギ・ダイズのタネが守られてきたからなのです。

戦後、食糧をしっかりと自給し豊かな国になるために、種子法は制定されました。優良なタネの生産と普及を、都道府県が責任をもってしっかりとやりなさいという法律です。そのため都道府県は、タネの品質保証のための検査や、その土地に合った作りやすい品種への品種改良などを「タネは公共財、基本食料の確保」という責任のもとで担ってきました。

しかし種子法が3月いっぱい廃止されることが決定しました。廃止の理由は「強い農業の実現に種子法は邪魔になる」というもので（今までも種子産業への民間参入が禁止されていたわけではなく、言いがかりのような理由です！）、議論もほとんどしないまま決定されてしまいました。では今後どのようなことが起こる可

能性があるのでしょうか。

・法的根拠や財政的裏付けがなくなるので、都道府県が品質管理や品種改良を行えなくなり、タネが劣化していくのではないか。

・これまで公共財として蓄積してきた遺伝資源（タネ）がバイオメジャー企業に流出し、農業競争力が逆に弱体化していくのではないか。

・民間企業が開発費用を回収するためにタネが高価になったり、売れるもの以外のタネが生産されなくなったりして、食料主権が危機に陥るのではないか。

農家の方でも、種子法のおかげでタネを安価で安定的に手に入れることができているのだということを知らない人も多いそうです。それだけ種子法は「農業の土台」の役目を果たしてきたということでしょう。

「種苗法」という法律もありますが、種子法の代わりになるものではありません。いまはまだ各都道府県は今後の対応を模索中です。種子法が守ってきた体制が崩れてきてしまう前に、タネを守ること、多様な農業と生物多様性を守ることを再構築しなければなりません。それはまさに「いま」危急の課題なのです。

■ 2 ■ 給食ゲーム作成にむけて

HUG(避難所運営ゲーム)というゲームがあります。大規模災害が起こったとき、被災した多くの人々が避難所での生活を強いられることとなります。もし避難所の運営をしなければならない立場になったときどう対応すれば良いのか、「あなたならどうする？」を体験できるゲームです。

きゅうしょくカンガルー！では、栄養計算、予算計算、献立作り、タイムスケジュール、導線図など、給食提供を体験できるゲームを作成しようとしているのですが、HUGが大変参考になるのではないかと考えています。このHUGを体験できるイベントがありますので、HUGを体験したい方はもちろん、給食ゲームに興味のある方にもぜひ来ていただけたらと思います。詳しくはこちら→

<http://www.shizenha.ne.jp/nara/detail/5/index.html?articleId=22350>

● 来月もお楽しみに♪ ●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー！(奈良の学校給食を考える会)

E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com

facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内(奈良市今市町 40-1)
